

官報

號外

昭和十八年三月五日

○第八十一回衆議院議事速記録第十九號

昭和十八年三月四日(木曜日)

午後二時六分開議

議事日程 第十八號

昭和十八年三月四日

午後一時開議

第一 北支那開發株式會社法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第二 中支那振興株式會社法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第三 占領地軍政官憲ノ爲シタル行爲ノ法律上ノ效力等ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第二讀會ノ續(委員長報告)

第三讀會ノ續(委員長報告)

〔左ノ報告ハ、則讀ヲ經サルモ參照ノ爲メニ掲載ス〕

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

學校財團設立ニ關スル建議案

提出者 高城 憲夫君 森田重次郎君

土地整理士法制定ニ關スル建議案

提出者 松浦周太郎君 小野 秀一君

農耕地ノ綠化運動展開ニ關スル建議案

提出者 黑澤 西藏君 安孫子孝次君

助川啓四郎君 松浦周太郎君

石坂 繁君 泉 國三郎君

山口左右平君 間宮 成吉君

統計機構ノ整備強化ニ關スル建議案

提出者

小柳 牧衛君

長沼 權一君

高岡 大輔君

稻葉 圭亮君

加藤 知正君

今成留之助君

石田 善佐君

(以上二月二十七日提出)

設ケ浦北浦水位低下ニ關スル建議案

提出者

内田 信也君

渡邊 健君

中井川 浩君

川崎巳之太郎君

山本 条吉君

小篠雄二郎君

北海道土功組合更正ニ關スル建議案

提出者

松浦周太郎君

安孫子孝次君

吉田貞次郎君

木曾川河水統制事業ニ關スル建議案

提出者

野田 正昇君

林 正男君

樋口善右衛門君

國民精神昂揚ノ根本國策ニ關スル建議案

提出者

小野寺有一君

八角 三郎君

(以上二月一日提出)

一去二十七日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

昭和十八年度一般會計歲出入ノ財源ニ充ツル爲メ公債發行ニ關スル法律案

營業用品資金特別會計法案

造幣局ノ資金ニ關スル法律案

昭和十五年法律第六十九號中改正法律案

(大東亞戰爭ニ關スル一時賜金トシテ交付スル爲メ公債發行ニ關スル件)

昭和十二年法律第八十號改正法律案(通信事業特別會計ニ於ケル簡易生命保險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ニ關スル件)

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案(大東亞戰爭ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲メ公債發行ニ關スル件)

木炭需給調節特別會計法中改正法律案

一去一日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

戰時行政特別法案

許可認可等臨時措置法案

教育基金特別會計法外二十三法律ノ廢止ニ關スル法律案

日本證券取引所法案

市街地信用組合法案

外貨債處理法案

特殊財産資金特別會計法案

農業團體法案

水産業團體法案

一去二日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

昭和十八年度歲入歳出總豫算案並昭和十八年度各特別會計歲入歳出豫算案

豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

(第一號)昭和十七年度歲入歳出總豫算追加案

(特第一號)昭和十七年度各特別會計歲入歳出豫算追加案

(第一號)昭和十八年度歲入歳出總豫算追加案

(特第一號)昭和十八年度各特別會計歲入歳出豫算追加案

(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

特殊財産資金豫算案

(第三號)昭和十八年度歲入歳出總豫算追加案

(特第二號)昭和十八年度各特別會計歲入歳出豫算追加案

樺太内地行政一元化ニ伴フ樺太廳特別會計ト他ノ會計トノ關涉ニ關スル法律案

朝鮮事業公債法中改正法律案

朝鮮簡易生命保險及郵便年金特別會計法案

臺灣事業公債法中改正法律案

臺灣官設鐵道用品資金會計法中改正法律案

朝鮮郵便年金ノ事務ニ關スル郵便物ニ關スル法律案

一去二十七日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ

第二部選出決算委員 菊地養之輔君

一去二十七日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ

第六部選出 決算委員 鶴見 祐輔君(橋本祐幸君補闕)

一 去一 日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ
第九部選出決算委員 池本甚四郎君
一 去一 日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ
第二部選出
決算委員 川俣 清音君(菊地養之輔君補關)
一 去二 日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ
第九部選出
決算委員 渡邊 健君(池本甚四郎君補關)

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 是ヨリ會議ヲ開キマス
○森下國雄君 議事日程變更ノ緊急勸議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際政府提出日滿地方稅徵收事務共助法案、明治四十年法律第二十五號廢止法律案及ビ大正九年法律第五十三號中改正法律案ノ三案ヲ一括議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ、其ノ審議ヲ進メラレシコトヲ望ミマス
○副議長(内ヶ崎作三郎君) 森下君ノ勸議ニ御異議アリマセスカ
〔學識ナシ〕ト呼ブ者アリ
○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、日滿地方稅徵收事務共助法案、明治四十年法律第二十五號廢止法律案、大正九年法律第五十三號中改正法律案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續キヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス 古屋慶隆君

日滿地方稅徵收事務共助法案(政府提出、貴族院送付)
第一讀會ノ續(委員長報告)
明治四十年法律第二十五號廢止法律案(樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)
第一讀會ノ續(委員長報告)
大正九年法律第五十三號中改正法律案(關稅法關稅定率法及保稅倉庫法等ノ

朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)
第一讀會ノ續(委員長報告)
報告書
一 日滿地方稅徵收事務共助法案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十八年三月四日
委員長 古屋 慶隆
衆議院議長岡田忠彥殿

報告書
一 明治四十年法律第二十五號廢止法律案(樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十八年三月四日
委員長 古屋 慶隆
衆議院議長岡田忠彥殿

報告書
一 大正九年法律第五十三號中改正法律案(關稅法關稅定率法及保稅倉庫法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十八年三月四日
委員長 古屋 慶隆
衆議院議長岡田忠彥殿

報告書
○古屋慶隆君 只今議題トナリマシタ日滿地方稅徵收事務共助法案外二件ノ委員會ノ審議及ビ經過ニ付キマシテ御報告申上ゲマス、先ヅ第一ニ、日滿地方稅徵收事務共助法案制定ノ趣旨カラ申述ベマス
近時滿洲國ノ發展ニ伴ヒマシテ、日滿間ノ交通ガ漸次繁榮ヲ加フルト共ニ、地方稅納稅

義務者ノ移動モ亦累年多キヲ加ヘ、是ガ爲メ地方團體ハ、相互ニ地方稅ノ徵收ニ付キ相當苦慮シツツアル狀況デアリマス、政府ハ曩ニ實施セラレマシタ日滿國稅徵收事務共助法ノ例ニ倣ヒマシテ、地方稅ノ徵收ニ付テモ、相互囑託ヲナシ得ルノ途ヲ開カンストスルモノデアリマス、今其ノ要點ヲ簡單ニ申上ゲマス、第一ハ、滿洲國側ハ地方稅ノ徵收ヲ囑託スル場合デアリ、第二ハ、滿洲側カラ地方稅徵收ノ囑託ヲ受ケル場合デアリ、第三ハ、此ノ徵收ノ囑託ヲ受ケマシタ滿洲國地方稅ノ徵收ノ順位、訴訟、訴訟等ニ付キ規定ヲ致シマス、費用ハ、徵收金ノ徵收及ビ送付ニ要シマス、費用ハ、之ヲ所屬市町村ノ負擔トスル旨ヲ規定致シタノデアリマス、是ガ大體ノ趣旨デアルノデアリマス、別ニ本案ニ付テハ、委員會デハ御質疑ガゴザイマセスデシタ
次ニ、明治四十年法律第二十五號廢止法律案ハ、曩ニ政府ノ方針決定ヲ見マシタル内外地行政一元化ノ一端トシテ、本年四月以降樺太ヲ内地ニ編入スル爲メ具體的措置ト致シマシテ、將來制定セララル法律ハ、原則トシテ當然樺太ニモ施行スルコトトシ、法律ノ施行關係ヲ速カニ内地ト同様ナラシムル爲メ、現在樺太ヲ内地ト別個ノ法域トシテ居ル本法律ヲ廢止セントスルモノデアリマス、既存ノ法律ニ付キマシテハ、直チニ全部ヲ樺太ニ施行スルコトハ、種々困難ナル事情モアリマス、既ニ公布セラレテ居リマス、法律ノ施行關係ハ、當分ノ内從來通り明治四十年法律第二十五號ノ例ニ依リ、在來通り勅令ヲ以テ施行致スヤウ、此ノ法律ニ附則ガ設ケラレテアリマス、此ノ法律案ノ審議ニ當リマシテ質疑ガ二點アリマシタ、第一點ハ、既ニ四月一日ヨリ内地編入ノ根本方針ニ基キ、樺太ニ市制町村制ヲ施行スルカドウカ、斯ウ云フ質問ニ對シマシテ、現在樺太ニ於テハ特別ノ制

度ガアリ、唯其ノ内容ハ市制ニ付テハ殆ド内地ト非常ニ似通ツテ居ル點多イガ、町村制ニ付テハ、相當内地ノ制度トハ異ツテ居リマス、今同ノ改正市制、町村制ハ原則トシテ内地ト同様ニ、樺太ニモ此ノ法律ヲ適用スル建前ニナツテ居リマス、併シナガラ從來カラ特殊ノ事情モアリ、急激ナル變化ヲ致シマスルコトハ、種々困難ノ事情モアリマス、此ノ點ニ付テハ、特例ヲ設ケテ參リタイト云フ政府ノ答辯ガアツタノデアリマス
第二點、衆議院議員選舉法ハ樺太ニ施行セラレカトノ質問ニ對シマシテ、政府ハ既ニ内地編入ノ原則ヲ定メタル以上ハ、出來ルダケ速カニ之ヲ施行致シタイ、其ノ時期等ニ付キマシテハ、ハツキリト申上ゲ兼ねマス、クレドモ、近キ將來ニ選舉法改正ガ行ハル機會ニ、當然ニ問題ニナルコトデアラウトノ答辯ガアリ、目下鏡察研究中デアルトノ答辯ガアツタノデアリマス、他ニ樺太開發會社ノ成績等、樺太ノ人口政策、樺太ノ農業政策等ニ關シ、種々質疑應答ガアリマシタガ、詳細ハ速記録ニ依ツテ御覽ヲ願ヒタイと思ヒマス
第三ニ、大正九年法律第五十三號中改正法律案ノ内容ヲ申上ゲマス、日滿陸境國境地域ニ於ケル經濟開發ノ原動力タル鴨綠江ノ水力電氣開發事業ハ、滿鮮兩當局ノ協定ニ基キマシテ、鴨綠江水力電氣會社ノ手ニ依ツテ目下着々進捗中デアリマシテ、既ニ工事中ノ水豐發電所ニ引續キ雲峯、義州ノ兩發電所工事ニ着手セントシテ居ルノデアリマス、是ガ建設工事に用テ各種物品ハ、滿鮮國境ヲ踰エ、頻繁ニ運搬セラレマス、其ノ出入ノ都度關稅法所定ノ手續ヲ執ラセマス、工事ノ進捗ト相當大ナル支障ヲ來スコトナリマス、現行法ニ改正ヲ加ヘ、是等物資ノ輸出入ニ關シ、關稅法ノ適用ヲ排除セントスルモノデアリマ

度ガアリ、唯其ノ内容ハ市制ニ付テハ殆ド内地ト非常ニ似通ツテ居ル點多イガ、町村制ニ付テハ、相當内地ノ制度トハ異ツテ居リマス、今同ノ改正市制、町村制ハ原則トシテ内地ト同様ニ、樺太ニモ此ノ法律ヲ適用スル建前ニナツテ居リマス、併シナガラ從來カラ特殊ノ事情モアリ、急激ナル變化ヲ致シマスルコトハ、種々困難ノ事情モアリマス、此ノ點ニ付テハ、特例ヲ設ケテ參リタイト云フ政府ノ答辯ガアツタノデアリマス
第二點、衆議院議員選舉法ハ樺太ニ施行セラレカトノ質問ニ對シマシテ、政府ハ既ニ内地編入ノ原則ヲ定メタル以上ハ、出來ルダケ速カニ之ヲ施行致シタイ、其ノ時期等ニ付キマシテハ、ハツキリト申上ゲ兼ねマス、クレドモ、近キ將來ニ選舉法改正ガ行ハル機會ニ、當然ニ問題ニナルコトデアラウトノ答辯ガアリ、目下鏡察研究中デアルトノ答辯ガアツタノデアリマス、他ニ樺太開發會社ノ成績等、樺太ノ人口政策、樺太ノ農業政策等ニ關シ、種々質疑應答ガアリマシタガ、詳細ハ速記録ニ依ツテ御覽ヲ願ヒタイと思ヒマス
第三ニ、大正九年法律第五十三號中改正法律案ノ内容ヲ申上ゲマス、日滿陸境國境地域ニ於ケル經濟開發ノ原動力タル鴨綠江ノ水力電氣開發事業ハ、滿鮮兩當局ノ協定ニ基キマシテ、鴨綠江水力電氣會社ノ手ニ依ツテ目下着々進捗中デアリマシテ、既ニ工事中ノ水豐發電所ニ引續キ雲峯、義州ノ兩發電所工事ニ着手セントシテ居ルノデアリマス、是ガ建設工事に用テ各種物品ハ、滿鮮國境ヲ踰エ、頻繁ニ運搬セラレマス、其ノ出入ノ都度關稅法所定ノ手續ヲ執ラセマス、工事ノ進捗ト相當大ナル支障ヲ來スコトナリマス、現行法ニ改正ヲ加ヘ、是等物資ノ輸出入ニ關シ、關稅法ノ適用ヲ排除セントスルモノデアリマ

ス、此ノ法案ニ付テハ何等ノ質疑アリマ
セナシ

以上三案ヲ一括議題トシテ討論ニ入リマ
シテ、伊藤五郎君ハ翼政會ヲ代表シテ、原
案賛成ノ意見ヲ述べラレ、討論ハ結局致シ
マシテ採決ニ入リ、各案トモ原案ヲ滿場一
致ヲ以テ可決致シマシタ、右御報告申上
デマス(拍手)

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 三案ノ第二讀
會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼ブ者アリ)

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト
認メマス、仍テ三案ノ第二讀會ヲ開クニ決
シマシタ

○森下國雄君 直チニ三案ノ第二讀會ヲ開
キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通リ
可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 森下君ノ動議
ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼ブ者アリ)

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト
認メマス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開
キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

日滿地方稅徵收事務共助法案

第二讀會(確定議)

明治四十年法律第二十五號廢止法律案
(樺太ニ施行スベキ法令ニ關スル件)

第二讀會(確定議)

大正九年法律第五十三號法中改正法律
案(關稅法關稅定率法及保稅倉庫法
等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件)

第二讀會(確定議)

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 別ニ御發議モ
アリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、三案ト
モ委員長報告通リ可決確定致シマシタ(拍
手)日程第一乃至第三ハ、同一委員ニ付託シ
タル議案デアリマスルカラ、一括議題トナ

スニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼ブ者アリ)

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト
認メマス、日程第一、北支那開發株式會
社法中改正法律案、日程第二、中支那振興
株式會社法中改正法律案、日程第三、占領
地軍政官憲ノ爲シタル行爲ノ法律上ノ效力
等ニ關スル法律案、右三案ヲ一括シテ第一
讀會ヲ續クニ開キマス、委員長ノ報告ヲ求
マス——委員長手代木隆吉君

第一 北支那開發株式會社法中改正法
律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第二 中支那振興株式會社法中改正法
律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第三 占領地軍政官憲ノ爲シタル行爲
ノ法律上ノ效力等ニ關スル法律案(政
府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一北支那開發株式會社法中改正法律案
(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
昭和十八年三月一日

委員長 手代木隆吉

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一中支那振興株式會社法中改正法律案
(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
昭和十八年三月一日

委員長 手代木隆吉

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一占領地軍政官憲ノ爲シタル行爲ノ法律
上ノ效力等ニ關スル法律案(政府提出、
貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
昭和十八年三月一日

委員長 手代木隆吉

衆議院議長岡田忠彦殿

(手代木隆吉君登壇)

○手代木隆吉君 只今議題トナリマシタ北
支那開發株式會社法中改正法律案外二件ニ
付テ、委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上
デマス、付託セラレマシタ法案ノ要旨ヲ申
上デマスガ、北支那開發株式會社法中改正
法律案及ビ中支那振興株式會社法中改正法
律案ハ、改正ノ要點ハ同一デアリマスカラ
一括シテ説明ヲ致シマス

今次改正ノ要點ハ、政府補給金交付
期間ヲ、兩會社共ニ五箇年間延長セント
スルモノデアリマス、北支那開發株式
會社法第二十九條及ビ中支那振興株式
會社法第二十七條ノ規定ニ依レバ、ソレ
ゾレ政府ハ一定ノ條件ノ下ニ、兩會社ノ民
間株主ニ對シ、配當シ得ベキ利益金額ガ年
六分ノ割合ニ達スルマデ、其ノ不足額ニ相
當スル金額ヲ補給スルコトニナツテ居リ、
其ノ補給金交付期間ハ、初營業年度及ビ爾後
五箇年間ト定メラレテ居ルノデゴザイマス、
兩會社ハ昭和十三年十一月七日ニ創立セラ
レ、本年十二月末ヲ以テ、其ノ期間ハ滿了
スルコトニナルデアリマス、而シテ右期
間滿了後、兩會社ガ政府ノ補給金ヲ受クル
コトナクシテ、果シテ六分ノ配當ヲナシ得
ルヤ、今日の確ナル見透シガ困難デアリ、
將來必ズシモ不安ナキ能ハザル狀態ニアル
ノデアリマス、故ニ今直チニ補給金制度ノ
廢止ハ妥當ナラズト信ジ、兩會社ニ對シテ
補給金ヲ交付シ得ベキ期間ヲ、五年延長ス

ルコトニ致シタルデアリマス、尙ホ現行法
ハ補給金交付ノ期間ヲ、初營業年度及ビ爾
後五箇年間ト定メタル所、兩會社ハ創立當初
歷年制ニ依リタル營業年度ヲ昭和十六年ノ
四月一日カラ、政府ノ會計年度同様ニ變更
シタ結果、營業年度ノ中途ニ於テ、補給金
交付ノ期間ガ滿了スルコト云フ不都合ヲ生ズ
ルニ至ル爲ニ、今回ノ改正ニ於テ、第十二
營業年度マデトシテ、補給金交付決定期間
ト營業年度ノ終期トノ間ニ、喰違ヒヲ生
ゼザルヤウニシタルデアリマス、而シテ交付
期間ヲ示スニ當リマシテ、特ニ第十二營業年
度マデトシタ譯デアリマス

次ニ占領地軍政官憲ノ爲シタル行爲ノ法
律上ノ效力等ニ關スル法律案ニ付テ申上デ
マス、大東亞戰爭ノ進展ニ伴ヒマシテ、皇
軍ノ占領地域ニ於テ軍政官施行セラレ、當該
地方ニ設置セラレテ居リマシタ領事館ハ、一
切之ヲ閉鎖セラレタノデアリマス、然ルニ在
來領事官ノ行ツテ居ツタ事項ノ中デ、或
ル種ノモノハ内地ノ法令ニ根據ヲ有シ、
領事官ノナシタル行爲ガ、直チニ是等
内地法令上ノ效力ヲ有スルモノガ少シトセ
ザルノデアリマス、例ヘバ在外邦人ノ婚
姻ハ、民法第七百七十七條ノ規定ニ依ツ
テ、其ノ地ヲ管轄スル領事官ニ届出ヲナ
シマスレバ、ソレデ民法上ノ婚姻ノ效力ヲ
生ズルノデアリマス、只今軍政下ニ於キマ
シテハ、在留邦人ガ軍政官憲ニ届出ヲナス
ノミデハ、帝國民法上ノ婚姻ハ成立シナイ
ノデアリマス、斯カル場合ハ便宜上現地軍
政官憲ニ於テ之ヲ受理シ、陸軍省ニ送り、
更ニ大東亞省ノ手ヲ經テ内地市町村役場ニ
送ツテ、初メテ届出ガ完成シ、婚姻ガ成立
スルノデアリマシテ、相當ノ日數ヲ要シ、
手續ノ煩雜ト不便トノ實情ニアルノデアリ
マス、右ノ外民法、戸籍法、船舶法、船員
法等ニ付テモ、同様ノ問題ガ生ズルノデア
リマス、仍テ本法ヲ制定シテ、一般的ニ占

領地軍政官憲ガ占領地統治ノ爲メ行フ行爲、或ハ在留邦人等ガ軍政官憲ニ對シテナス行爲中、從來領事官ノ行ヒ來レル事項、或ハ領事官ニ對シテ行ヒタル事項ニ付テ、之ヲ領事官ノ場合同様、内地法令上ノ調整ニ一歩ヲ進メントスルモノデアリマス、尙ホ本法ノ施行ニ當リテハ、全占領地域ヲ一様ニ取扱ヒ得ザルニ依リ、之ヲ行ヒ得ル地域竝ニ事項等ニ關シテハ、占領地域ノ諸般事情ニ即應シテ、勅令ヲ以テ之ヲ指定シ得ルヤウニシタノデアリマス

本委員會ハ二月九日以來十回開會致シマシタ、委員會ニ於キマシテハ、三案ヲ一括シテ議題ニ供シ、慎重審議ヲ重ネ、委員多數ト政府トノ間ニ、熱烈ニシテ眞摯ナル質疑應答ガ展開セラレタノデアリマス、特ニ本法案ニ關聯シテハ、支那事變處理竝ニ大東亞共榮圈建設ニ關シ深キ探究ヲ加ヘ、大東亞戰爭完遂ニ伴フ共榮圈建設ニ付テ政治、經濟、民族、思想、文化、厚生等ノ施策ニ關シテ、根本的ノ論議ガ行ヘラレタノデアリマス、其ノ間秘密會等モ開催致シ、質スベキハ十分質シタノデアリマス、今委員會ニ現ハレマシタ政府トノ質疑應答中、其ノ主ナルモノヲ此處ニ御報告ヲ申上ゲマス

其ノ一ツハ、北支那開發株式會社、中支那振興株式會社、兩會社ノ經營ヲ一元化シ、若シハ子會社ノ事業ヲ直營スル等、其ノ經營ノ方針ヲ變更スル所ノ意思ガナイカ、斯ウ云フ質問ニ對シマシテ、大東亞大臣ハ、北支開發ハ大東亞省ノ監督責任デアアルガ、中央ニ於テ監督權ヲ行使スルコトハ實情ニ副ハナイノデ、現地機關ニ委シテアル、併シ事務ノ末端マデノ干渉ヲ避ケナレバナラナイコトハ同感デアアル、現在ノ運用ニ再檢討ヲ加ヘ、改ムベキハ改メタイ、尙ホ北支開發會社ノ系統會社事業ニ對スル介入ハ、當然シナレバナラヌガ、其ノ介入ハ

程度如何ニ、是ハ歸着スルコトデアアルガ、今後十分實情ニ即スルヤウニ運營ニ萬全ヲ期シタイ、更ニ軍管理下ニアリ先般解除トナツタ炭礦開發事業ニ關シ、地域別ニソレソレ日華合辦ノ會社組織ニ依ツタコトハ、各其ノ特性ヲ發揮セシムル爲メモノデ、要ハ企業形態ハ如何ニモアレ、國家經濟計畫ノ要請ニ反スルコトハ不可能デアツテ、資金資材等ノ觀點ヨリ、之ヲ一元化スル必要ハナイト思フト答ヘテ、現行經營形態ノ適當ナルコトヲ明カニセラレタノデアリマス

次ニハ北支ノ食糧問題ノ重要性ヲ如何ニ見テ居ルカ、之ニ對スル大東亞大臣ノ答辯ハ、北支那食糧問題ハ、集荷配給ノ機構ヲ整備スルト同時ニ、大イニ増産ニ力ヲ入レナレバナラナイ實情デアアル、華北政務委員會ニ於テモ増産ニ努力中デアアル、我が國デモ極力之ヲ援助スル方針ヲ執ツテ居ル、併シ北支ハ從來食糧ノ自給ノ出來ナイ地域デアリ、現地自給ヘ難カシノデ、共榮圈各地カラ有無相通ズル方針不足分ヲ補填スル積リデアアルトノ答辯ガアリマス

次ハ中國共產黨ニ對シ如何ナル考慮ヲ拂ツテ居ルカト云フ質問ニ對シ、大東亞大臣ハ、中國共產黨問題ハ軍事、民心獲得上ニ輕視ガ出來ナイ、國民政府ヨリ我が國ト利害ヲ等シクスルモノガアル、是ガ討伐、或ハ對民衆工作ニ於テ極力對策ヲ講ジテ居ル、我が方モ支那ニ於ケル治安、或ハ經濟開發、或ハ國民政府ノ政治力強化ト云フヤウナ點ニ鑑ミテ、單ニ軍事ノ討伐ダケデナク、經濟上モ之ニ壓迫ヲ加ヘ封鎖ヲ行フ、之ニ依ツテ共產黨ノ境域ヲ圍ミ、又更ニ進シテ保甲制度ノ推進、又治安ノ強化運動、其ノ他ノ一般民衆ノ指導啓蒙ニ力ヲ入レル、斯ウ云フ風ニ凡ル方面デ國民政府ト協力シテ、中共ノ地盤蠲滅ニ努メテ居ルガ、更ニ根本的ニハ、ドウシテモ國民政府ノ政治力ヲ強化シテ、國內治安ヲ速カニ

確立サセルコト、又經濟建設ヲ促進シテ、民生ノ安定ヲ進メ以テ赤化勢力浸透ノ餘地ナカラシムルコトガ、最後ノ對策トシテ考ヘナレバナラナイ點デアアル、今日ノ實情ニ於テハ、マダ安心スベキ域ニ達シテ居ラナイノデ、今後一段ノ努力ヲ要スル旨ノ答辯ガアリマス

次ニハ大東亞共榮圈內ノ思想對策如何ト云フコトデアリマス、之ニ對スル大東亞大臣ノ答辯ハ、萬邦ヲシテ其ノ所ヲ得シムル、斯ウ云フ皇道ノ有難キ御精神カラ考ヘテ見マス、思想ノ細部ニマデ互ツテ、我々ガ國ト同ジモノヲ各國ニ強ヒルト云フコトハ、皇道ノ行キ方トシテハ考ヘナレバナラヌ點デアアルノデハナイカ、ヤハリ各、各國各民族ノ特性ト云フモノガアルカラ、ソレハ各民族ノ發達ニ任シテ行ク分野モ多クアルト思フ、要スルニ共榮圈內ニ於テ、我が國ニ反スルモノノ存在ヲ許スコトハ出來ナイガ、ソレ以上細部ニ互ツテ思想ノ問題マデ、我が國ガ一々全ク同ジモノヲ強ヒルト云フコトハ、皇道ノ精神ニアラズト解スル旨ノ答辯ガアリマス

次ニ南方開發金庫案竝ニ南方通貨ニ對スル對策ヲ、如何ニ考慮シテ居ルカト云フ質問ニ對シマシテ、大東亞大臣ハ、南方開發金庫案ハ現地經濟ヲ賄フモノデアアルカラ、其ノ通貨價值ノ維持ハ、現地經濟自體デ之ヲ補ツテ行クベキデアアル、將來情勢ノ推移ニ依ツテハ、南方特有ノ發券機關ガ、各地ニ出來ルコトモ豫想サレルガ、現在南方開發金庫ノ保持スル發券機能ハ簡單ニハ變更サレナイ、南方開發金庫ノ發券ニ付テ考フルニ、一定限度ヲ超過スル場合ハ、購買力ガ減少シ、現地民生ノ安定、軍費ノ現地調達ニ却テ支障ヲ來スカラ、是ガ價值ノ維持ニ當ツテハ、現地產業ノ振興ト、發券ノ適正化ニ努力スル、而シテ紙幣モ、公債モ類似ノ點ガアルノデ、南方開發金庫發行ノ紙幣ヲ

所持スルコトハ、公債ヲ購入スルト同ジク、ヤハリ戰費ノ負擔ニナルト云フヤウナ答辯ガアリマス

次ニ滿洲ノ開拓ハ、重要性質ヲ加ヘルト思フガ、ソレト同時ニ滿洲建設ノ經驗ヲ、南方ニモ活用シテハ如何トノ質問ニ對シマシテ、大東亞大臣ハ、滿洲建設ハ大ナル成功デアアルガ、其ノ知能、經驗ヲ南方ニ於テ活用スルコトハ、當然考慮スベキコトト考ヘ、併シ注意ヲ要スルコトハ、滿洲、支那等北方ノ建設開發ニ從事シタ人ガ、南デ事態ガ進展シタト云ツテ、北ヲ拋棄シテ新シイモノニ食ヒ付ク考ヘデ、南ニ飛ンデ行クコトハ同意出來ナイ、滿洲建設ニ參畫シタ人々ハ、今後更ニ大キナ建設ニ協力スベキデアリ、文那ニ關シテモ亦然リデアアル、新シイモノニ食ヒ付クト云フヤウナコトデハナシ、滿洲ノ建設ニ參畫シタ知能、經驗ヲ南方ニ活用スルコトハ當然デアアル、斯ウ云フ旨ノ答辯ガアリマス

次ニ、共榮圈內ニ展開セラレベキ翼贊運動如何ニスルカ、此ノ問題ニ付テ安藤國務大臣ヨリ答辯ガアリマス、翼贊運動ハ大東亞地區全般ニ互リ繰展ゲラルベキデ、大綱的ニハ翼贊會ノ運動ニ歸一セシメナレバナラナイ、併シ各地ノ運動ニハ、ソレソレ沿革ガアルカラ、直チニ翼贊會ガ指導的中核體トナルハ、時期尙早デアルト思フ、翼贊會ト與亞同盟トノ關係ハ、相當緊密化サレテ居ルガ、與亞同盟ヲ傘下團體ニ收メテハ居ナイ、今後更ニ緊密ノ度ヲ進メテ行ク積リデアアル、大東亞地區ニ對スル翼贊運動展開ハ、大東亞省ト連絡ヲ保ツテ善處シツツアル、外地ニ於ケル運動方針ハ、日滿支基本條約ニ依ツテ明カデアアルガ、其ノ具體的目標ハ、マダ的確ニサレテ居ナイ、是ハ現地ノ特殊事情、就中治安狀況ニ應ジテ樹立サレナレバナラナイト思フ、

斯克ノ如キ答辯ガアリマシタ、而シテ委員
長ヨリ總括ノ重要ナル質問ヲ致シタノデ
アリマスルガ、此ノ答辯ハ重要デアリマ
スカラ、答辯ノ儘茲ニ御報告ヲ申上
ゲタイト思ヒマス

委員長ノ質問ハ、先般中華民國國民政府
ノ參戰ニ關聯シテ執ラレタル帝國ノ對支政
策ニ關シ重要ナル點、即チ第一點ハ、今次
帝國政府ノ執リタル對支處理根本政策ノ基
調ハ、國民政府ノ政治力ヲ強化シ、日華相
協力シテ、以テ大東亞戰爭完遂ニ邁進スル
ニアリト思フガ、政府ハ是ガ實現ニ關シ、
中華民國ニ對シ如何ナル態度ヲ以テ臨マル
ルノデアルカ、此ノ點ヲ明瞭ニセラレタイ、
第二點ハ、租界還付、治外法權ノ撤廢等ノ
措置ハ、北支那開發、中支振興等ノ國策會
社ヲ初メ、一般在支邦人ノ經濟活動ニ、自
然的ニ相當ナル影響ヲ與フルモノト考ヘラ
ルガ、政府ハ之ニ對シテ如何ナル方針ヲ
以テ臨マルカ、關係業者ノ向フベキ所ヲ
明カニスル爲ニ、政府ノ所信ヲ示サレタ
イ、斯様ナ質問ニ對シテ、大東亞大臣カラ、
第一點ニ付キマシテハ、帝國ノ中華民國ニ
對スル根本方針ガ、其ノ自主獨立ノ尊重ト、
國民政府ノ政治力發揮トニアルコトハ、既
ニ本委員會其ノ他ノ機會ニ於テ、屢、説明シ
タ通りデアリマス、國民政府ハ今次ノ參戰
ニ依ツテ帝國ト同生共死、相携ヘテ米英擊
摧ノ聖戰ニ挺身スルコトヲ決意シ、國民ノ
向フベキ所ヲ明示致シタノデアリマシテ、
茲ニ帝國ト中華民國トハ軍事上、政治上、
經濟上凡ユル分野ニ互ツテ完全ナル協力ヲ
保チ、相提携シテ大東亞戰爭ノ完遂ニ邁進
スルコトト相成ツタノデアリマス、即チ兩
國ノ關係ハ、茲ニ愈々緊密ノ度ヲ深クシテ參
國ノ關係ハ當然デアリマスガ、獨立國間ノ提
携デアリマスカラ、相互ニ十分相手方ノ立
場ヲ尊重スル建前ノ嚴守サルベキハ申スマ
デモアリマセヌ、隨テ國民政府側ノ我方

ニ對スル協力ヲ初メ諸般ノ政務ニ互リマシ
テ、飽クマデモ其ノ創立ト責任ノ下ニ、自
發的ニ發動サルベキデアリマシテ、我方
ニ於テ北ノ施政ニ關シ干渉ノ態度ニ出ツ
ルガ如キコトハアルベカラザル所デアリマ
ス、例ヘバ先日御質問ノアリマシタ國旗ノ
問題ノ如キモ、國民政府ノ執リタル措置ノ經
緯ニ付テ、一應ノ説明ヲ申上ゲタルデアリ
マスガ、事柄自體ハ國民政府ノ主權ノ發動
ニ外ナラヌノデアリマシテ、我方ノ關與
スベキ限リデナイコトハ申スマデモアリマセヌ、
又是ト同時ニ、帝國政府ガ租界ノ還付、治
外法權ノ撤廢等ノ措置ヲ執ルニ至リマシタ
所以モ、中國ノ主權ヲ尊重シ、其ノ自衛達
成ヲ支持セントスル我方ノ自發的意圖ニ
出タルモノデアリマスルコト言フ俟タザル
所デアリマス、第二ノ點ニ付キマシテ、我
ガ方ノ執リタル措置ガ、在支邦人ノ經濟活
動ニ及ボス影響ニ關シテ申上ゲマスガ、帝
國ノ中華民國ニ對シ臨ム態度ガ、只今申述
ベマシタ通り、其ノ日華提携ヲ具現セント
スルモノデアリマシテ、邦人ノ經濟的發展
ニ致シマシテモ、米英等ノ例ニ見タルガ如
キ權益又ハ特殊ノ牙城ニ立籠ル觀念ヲ脱却
スベキ時期ニ立至ツテ居ル信ズルノデア
リマス、今後北支開發、中支振興兩會社關
係事業ニ付テモ、積極的ニ中國產業ノ振興
ニ協力セシムルト共ニ、他面適當ノ調整ヲ
加ヘテ參ル必要ガアルト存ジマス、又一般
邦人ノ活動ニ付テモ若干ノ影響ハ免レナイ
所ト存ジマス、併シ是ト同時ニ、斯克シテ
初メテ眞ノ日華提携、共存共榮ノ基礎ガ確
立スルノデアリマシテ、此ノ新ナル基礎
ニ立ツテ、茲ニ永續性アル邦人ノ飛躍發展
ガ確保サレルノデアリマス、支那ニ於テ事
業ヲ營ム邦人ハ、國策ノ示ス所ヲ能ク理解
セラレ、欣然協力的態度ニ出デラレンコト
ヲ切望スルモノデアリマス

尙ホ此ノ二ツノ問題ニ對シ陸軍當局ノ意
見ヲ尋ネマシタ所、佐藤軍務局長ハ「簡單
ト呼ブ者アリ」陸軍ヲ代表シマシテ、國民
政府ノ作戰ト、之ニ伴フ帝國ノ新對支政策
ハ「簡單ト呼ブ者アリ」是ハ重要デア
リマスカラ、ドウゾ御聽キ願ヒマス、青木
大東亞大臣ノ説明ニ依ツテ明確ニナツタト
思フガ、對支政策ニ大乗の方策ガ執ラレタ
コトニ依ツテ、重慶政權ノ抗日抗戰ノ根本
方、完全ニ覆滅サレタノデアアル、孫文等ノ革
命思想ハ、不平等條約ヲ廢棄シ、支那ガ植
民地ノ地位カラ脱却スルコトヲ目的トシテ
居リ、是ガ達成ヲ支那自身ノ手デ行ツテ居
テハ、莫大ナル年月ト犧牲ヲ拂ツテモ、
容易ニナシ得ルモノデハナイ、併シナガラ
帝國ノ對支政策ヲ轉換ニ依ツテ、是ガ目的
ハ達成サレタノデアリ、支那史、否大東亞
史上ニ變革ヲ與ヘタモノデアルト云フベ
キデアル、是ハ國府ノ南京還都以來ノ汪主
席ノ熱烈ナル努力ト、國府ノ發展ト、帝國
ノ協力ニ依ルモノデアアル、而シテ此ノ對支
政策ヲ轉換ハ、實ニ重慶政權ノ抗戰目的ヲ
喪失セシメタノミナラズ、更ニ米英ノ戰爭
目的ヲモ、半バ失ハシメタリト見ルコトガ
出來ル、大東亞戰爭ハ支那事變ニ出デ支那
事變ニ戻ルガ、大東亞戰爭ノ勃發ヲ招來ス
ル日米交渉ニ於テ、其ノ難關ノ主題トナツ
タノハ、帝國ノ支那ニ於ケル武力ト經濟
ノ排他的獨占デアツタガ、帝國ハ租界ノ還
付、治外法權ノ撤廢ノミナラズ、敵產ノ殆
ト全部ヲ返還シテ居リ、此ノ事實ハ帝國ノ
經濟上ノ排他的獨占行爲ヲ云々スル米國ニ
何ノ顏アリヤト言ヒタイ、而シテ帝國ノ今
回ノ措置ハ、支那ノ領土主權ノ尊重ト云フ
ヨリ、完全ナ支那ノ獨立ヲ回復シタト言ヒ
得ルモノデアアル、租界ノ還付、治外法權ノ
撤廢、敵產ノ處理ニ依ツテ、支那人或ハ在
留邦人ニ、多少ノ損害ヲ與ヘルカモ知レナ
イガ、併シ大乗の見地ニ立ツテ、帝國トシ
テハ飽クマデ如何ナル障礙ガアラウトモ、

今回ノ措置ハ斷ジテ實行スル考ヘデアアル旨
ノ答辯ガアツタノデアリマス
其ノ他各般ノ事項ニ互ツテ、重要ナル質
疑應答ガ重ネラレマシタガ、其ノ詳細ハ速
記録ニ依ツテ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス
斯克致シテ質問ヲ終了致シマシタ、最後
ニ三案ヲ一括シテ討論ニ入り、翼贊政治會
ヲ代表シテ鈴木正吾君カラ、各案ニ對シ原
案贊成ノ表明ガアリ、討論ヲ終リ、三案ト
モ全會一致ヲ以テ、政府原案ノ通り可決致
シマシタ、此ノ段御報告申上ゲマス（拍手）
○副議長（内ヶ崎作三郎君） 三案ノ第二讀
會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕
○副議長（内ヶ崎作三郎君） 御異議ナシト
認メマス、仍テ三案ノ第二讀會ヲ開クニ決
シマシタ
○森下國雄君 直チニ三案ノ第二讀會ヲ開
キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り
可決セラレンコトヲ望ミマス
○副議長（内ヶ崎作三郎君） 森下君ノ動議
ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕
○副議長（内ヶ崎作三郎君） 御異議ナシト
認メマス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、
議案全部ヲ議題ト致シマス
北支那開發株式會社法中改正法律案
第二讀會（確定議）
中支那振興株式會社法中改正法律案
第二讀會（確定議）
占領地軍政官憲ノ爲シタル行爲ノ法律
上ノ效力等ニ關スル法律案
第二讀會（確定議）
○副議長（内ヶ崎作三郎君） 別ニ御發議モ
アリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、三案ト
モ委員長報告通り可決確定致シマシタ（拍
手）

○森下國雄君 議事日程追加ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際赤尾敏君外八名提出、青年禁酒法案ヲ議題トナシ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 森下君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ

青年禁酒法案(赤尾敏君外八名提出)

第一讀會

青年禁酒法案

青年禁酒法

第一條 本法ニ於テ青年トハ滿二十歲以上二十五歲未滿ノ者ヲ謂フ

第二條 青年ハ酒類ヲ飲用スルコトヲ得ズ

營業者ニシテ其ノ業態上酒類ヲ販賣又ハ供與スルモノハ青年ノ飲用ニ供スルコトヲ知リテ酒類ヲ販賣又ハ供與スルコトヲ得ズ

第三條 警察官署ハ前條第一項ノ規定ニ違反シタル者ニ對シ戒告ヲ爲スコトヲ得

第四條 青年ガ其ノ飲用ニ供スル目的ヲ以テ所有又ハ所持スル酒類及其ノ器具ハ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ沒收シ又ハ廢棄其ノ他ノ必要ナル處置ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條 第三條ノ戒告ヲ受クルコト三回ニ及ビ仍第二條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第六條 營業者ガ未成年者又ハ禁治產者

ナルトキハ本法ニ依リ之ヲ適用スベキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

附則

本法ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際滿二十歲ニ達シタル者ニ付テハ本法ハ之ヲ適用セズ

(金子定一君發言)

○金子定一君 只今上程サレマシタ青年禁酒法案ノ趣旨、理由ヲ申上ゲマス

先ヅ其ノ内容ニ付キマシテ、極メテ簡單ナル條文デゴザイマスカラ、既ニ御覽ヲ願ツタコトト考ヘマス、我ガ國ノ未成年者ハ、法律ニ依リマシテ既ニ禁酒致シテ居リマスガ、茲ニ提案ノ青年禁酒法ハ、是等未ダ杯ヲ手ニシナイ青年ニ對シマシテ、一年、又一年ト滿二十五歲ニ達シマスルマデ、酒ヲ遠慮シテ貰ハウト云フ趣旨ナノデゴザイマス、隨ヒマシテ、既ニ酒ニ親シミ、其ノ魅力ヲ生活慰安トシテ居リマスル者カラ、杯ヲ奪ハントスルモノデハナイノデアリマス、我ガ日本ガ次ノ時代ヲ託セントスル青年、否既ニ國家ノ運命ヲ託シテ居リマスル青年、此ノ青年ノ精神ト健康トヲ思ヒ案ジマシテ、國家ガ親心ヲ以チマシテ、天下ノ父母ニ代ツテ、此ノ法律ヲ制定セントスルモノデアリマス、此ノ法律案ハ父母ノ心ヲ以テ中心トシテ所謂規範法デアリマス、隨ヒマシテ此ノ法律ハ、濫リニ青年ヲ罪人ニ陷レントスルモノデハナイノデアリマス、即チ初犯ニ

對シマシテハ戒告、第二犯ニ對シマシテモ戒告、第三犯ニ至ツテ初メテ科料ト云フ次第デゴザイマシテ、此ノ法律ニ依ツテ眞ノ意味ノ罪人ガ作ラレルトカ、或ハ前科者ガ生ズルトカ云フヤウナコトハ決シテナイノデアリマス、又國家的、國民的ノ儀式、行事、藥用、又軍隊關係ノコトニ關シマシテハ、相當ニ顧慮シテ居ル次第デゴザイマス、尙ホ以下若干ノ説明ヲ加ヘタイト思ヒマス

此ノ法律案ハ、一面ニ於キマシテハ、經濟又ハ増產法デゴザイマス、他面ニ於キマシテハ、厚生、國民保健法デゴザイマス、併シ其ノ正シイ性格ハ、道義法デアリマス、即チ大東亞指導國家國民トシテノ良心的立法デアルコトヲ確信致シテ居リマス、先ヅ此ノ法律案ガ經濟的法案ト致シマシテ、如何ナル性質ヲ持ツテ居リマスカ、酒ノ消費物ノ消費、斯様ナケチナコトハモウ省略シテ申上ゲマセス、増產ノ面カラ申上ゲマス

ノ村ハ國民學校建築ノ爲ニ、全村禁酒ヲヤ
ツタノデアリマスガ、其ノ五年後ニ於キマ
シテ、學校ガ四万五千圓デ出來タノミナラ
ズ、各自ノ家屋改造、新築ノ爲ニ五万六千
圓ヲ使ヒ、信用組合ニ七万四千圓ヲ蓄ヘ、
郵便貯金トシテ四千二百圓ヲ蓄ヘ得タ譯デ
アリマシテ、十五年後ノ今日ニ至リマシテ
ハ、米ノ増産ハ一年平均一千三百石、木炭
増産二十四萬貫、是ハ倍加シテ居リマス、
養蠶、産馬共ニ激増シテ居ルデアリマス、
而モ此ノ村ノ出產率ノ多イコト、死亡率ノ
少イコトハ、全國ニ有名ナル村デゴザイマ
ス、又私ガ徴兵検査ヲシタ當時ハ、當時カ
ラ既ニ縣下デ最モ優秀ナノデアリマシタガ、
昭和十七年ノ結果ヲ見マス、石川全縣下
第一ノ成績ヲ示シテ居ルデアリマス、酒
ガ一般ニ人命ヲ十三年縮メ、煙草ハ五年縮
メルト申シテ居リマスガ、是ハ時局下本當
ニ考フベキ問題デアルト思ヒマス、デアリ
マスガ、本案ハ増産、保健ヲ超越致シマシ
テ、道義的法案ト云フ所ニ眞ノ性格ガアル
ノデアリマス、日本ノ指導者性ヲ世界ニ明
白ニ示シ、日本道義ヲ發揮致シマシテ、大
東亞共榮圈ヲ率ニテ立ツ日本ノ良心一面
ノ發露ト致シマシテ、一度足ヲ海外ニ運ビ
マス、此ノ必要ヲ思フ諸事實ガ非常ニ多
イデアリマス、現ニ私ガ此ノ壇ニ立ツ
コトガ分リマシテカラモ滿洲、支那カラ頻
リニ激勵ノ手紙、感激ノ手紙ガ參ルノデゴ
ザイマスガ、今ソレヲ朗讀スル時間ハゴザ
イマセヌ、ゴザイマセヌガ、洵ニ感心ニ堪
ヘナイ例ト共ニ、心ヲ打タレルコトガ多イ
ノデアリマス、例ヘバ滿鐵ノ社員會ハ、最
近ハ時局ニ鑑ミマシテ、幹部ノ飲酒ヲ禁止
致シタ筈デゴザイマス、斯ウ云フコトモ通
信ノ中ニ書イテアリマス、苟クモ人ノ上ニ
立ツテ人ヲ指導スル地位ニアル者ハ、此ノ
時局ニ於テ宜シク酒宴ヲ廢シ、酒ニ遠ザカ
ルベシト云フ趣旨ノヤウデゴザイマス、滿

洲、中華、南洋ニ於ケル日本ノ指導者ガ酒
ヲ慎ミ、日本ノ青年ガ酒盃ヲ手ニシナカッ
タナラバ、建設ガドノヤウニ早ク進ムカ、
蓋シテ表ノ外デアラウト思ヒマス、漢民族
ハ義狄ノ昔カラ酒ノ害ヲ知り、之ヲ慎シ
テ居リマシタノデ、今デモ御承知ノ通り人
前ニ醉態ヲ示サヌデアリマス、其ノ漢民
族ノ中ニ入リマシテ、我が國ノ青年達ガ如
何ナルコトヲシテ居リマスカ、是ハ決シテ
指導者トシテノ民族國家ノ青年ノ態度デハ
ナイデアリマス、日本ハ實ヲ申セバ世界
ニ於キマスル最古ノ禁酒國デアリマス、當
時ハ佛教ノ影響モアツタノデゴザイマセウ
ガ、元來ガ日本ハ粟酒ノ國デアリマシテ、
古イ神社ニ依リマスルト、古式ノ行事ハ、
殆ド粟酒ニ依ツテ行ハレテ居ルデアリマ
ス、ソレハ別トシマシテ、奈良朝ノ盛事ノ
直前、三韓、朝鮮ニ事アレバ、朝廷ハ禁酒
ノ詔ヲ御出シニナリマシテ、國民ヲ覺醒セ
シメテ居ラレマシタ、又蒙古來、元寇ノ當
時ニアリマシテモ、先ヅ鎌倉幕府ハ禁酒ノ
令ヲ發シマシテ之ニ備ヘ、專断ルヤ再ビ禁
酒ノ令ヲ發シマシテ、二度目ノ蒙古來ニ備
ヘテ居ルデアリマス、國家多難多事ノ時
ニハ、直グニ之ヲ行ツテ居リマスガ、大東
亞戰爭ノ今日ハ、未曾有ノ重大時局デアリ
マス

伊勢御親拜ノ 御上、無酒、無煙ニオ在
シマス 御上、此ノ青年禁酒法案ハ、髓カ
ニ忠節ノ法律案デアリマス、又天下ノ父母
ノ心ヲ心トシタ此ノ法律案ハ、孝行ノ法律
案デアリマス、即チ是ハ忠孝ノ道義法デゴ
ザイマス、諸外國ハドウカト申シマスルト、
「ドイツ」ハ「ヒトラー」青年團、勤勞奉仕
團、「アルバイト」ジンスト等ノ關係デ、
二十五歳マデノ青年ハ酒ヲ飲ンデ居リマセ
ヌ、今デハ恐ラク全國禁酒デアラウト思ヒ
マス、「イタリヤ」ハ御承知ノ通り本年ノ二
月三日ヲ以テ、全國ノ酒ノ製造、販賣ヲ禁
止致シマシタ「フランス」ハ葡萄酒ノ稅收入
ニ依ツテ、殆ド其ノ歳入ヲ保ツテ居タ國デ
アリマスガ、今ヤ滅亡ニ瀕シマシタガ「ペ
タン」ノ英斷ニ依リマシテ、是モ禁酒國ニ
ナリマシタ、「ソ」聯モ亦強酒ノ製造ニ關シ
全面的禁止ヲナシテ、此ノ大戰ニ入ツテ居
ルコトハ御承知ノ通りデアリマス、敵側「ア
メリカ」ノ全禁酒州ヲ總ママス、敵側「ア
メリカ」ノ全禁酒州ヲ總ママス、三十一
州ニナリマス、其ノ他ノ州ト雖モ相當ニ制
限ヲ加ヘテ居リマスノデ、殆ド全國禁酒ニ
近イデアリマス、「イギリス」モ亦強酒ノ
半減禁酒カラ、今日ノ大戰ニ入リマシテ、
今日デハ殆ド全國禁酒デアラウト考ヘテ居
リマス、我が國ハ最高ノ道義國家ヲ以テ任
ズル諸國家中ノ最高峰ニ居リマス、是非共
此ノ大事ニ當リマシテ、道義國家ノ最高峰
ニ居ル實ヲ、此ノ青年禁酒法案ニ依ツテ示
サナケレバナラスト考ヘマス

尙ホ一、二補足致シマス、此ノ法律案ニ
於キマシテ、二十五歳ト限定シマシタ所以
ハ、青年ノ心身ノ發達發育ノ限界ハ、此ノ
邊ニアリマス、學生、青年教養ノ年輩モ此
ノ邊デアリマス、又結婚出産等ニ大切ナ時
期モ、此邊デゴザイマス、飲酒ノ害ヲ受ケ
易ク、一生ノ不幸ヲ醸ス時期モ、此ノ前後
デゴザイマス

最後ニ反對論ト思ハレルモノ若干ニ對シ
マシテ、一言申上ゲテ置キマス、第一ニ禁
酒ハ風教教化ノ力ニ俟ツベキデアルト云フ
議論、東洋ニ於キマシテハ佛教ノ偉大ナル
勢力ヲ以チマシテ、オ釋迦サンノ戒メヲ以
チマシテモ、今日マデ先ヅ軍酒出門ニ入ル
ヲ禁ズト云フ標榜ヲ高ク掲ゲテ置キナガ
ラ、オ寺ノ中デモ禁酒ハ行ハレテ居ナイノ
デアリマス、西洋デハ耶蘇教ヲ背景トシテ、
アレ程盛シナ禁酒運動ガアリナガラ、法律
ニアラザレバ遂ニ禁止停止スルコトガ出來
ナカツタデアリマス、我が國ニテモ禁酒
團體ノ數ケケデモ二千ゴザイマス、禁酒會
員ハ四十萬デゴザイマスガ、事實上少年ノ
禁酒ノ止リマシタノハ、未成年者禁酒法ニ
依ツタノデアリマス、ドウシテモ法律ノ力
ニ依ラザレバ出來ナカツタコトガ東西南洋
日本ヲ通ジテノ儼タル事實デゴザイマス（拍
手）我が國ノ未成年者禁酒法ノコトハ、ド
ナタモ御承知デゴザイマセウガ、今ハドウ
カ、此ノ法律ノ發布以來、少年ノ九五%ハ
實際ニ酒ヲ飲ンデ居リマセヌ、後ノ五%ハ
時ニ反則ヲスルデアリマスガ、是トデモ
以前ニ比レバ言フニ足ラナイガ、眞ニ是
ハ世界ニ誇ルベキ規範ノ效果デゴザイマ
ス

第二ノ反對論トシテ、重稅ニ依ルベシト
云フ議論モアルヤニ承ツテ居リマスルガ、
是ハ失禮ナガラ皮相ノ見デアラウト考ヘマ
スノデ、多クハ申上ゲマセヌ

第三ニ最後ニ陸海軍人ト酒トノ關係、此
ノ問題デゴザイマス、本案二百八十七名ノ
贊成者中ニハ、陸海軍出身者議員ノ大多數
ヲ含ンデ居リマス、又陸海軍當局中ニ、個
人トシテ絶大ニ贊意ヲ示シテ居ル方モ相當
ニアルデアリマス、併シ第一線ノ將兵ガ
儀式的ニ、或ハ精神の行事トシテ酒ヲ用ヒ
ントスル場合ガアル、將兵生死關頭ニ立チ
マシタ感激ニ、一杯ノ酒ヲ盛ラントスル時、
又連日連夜激務勞務ニ服シマシタ其ノ興奮
ヲ鎮靜セントスル藥酒代用ノ酒、斯ウ云フ
場合ハ確カニアリマス、ガ是ハ此ノ法ノ地
域ト云フコトヲ考ヘマスルト、直グニ諒解
ノ付ク問題デハナイカ、併シナガラ道義的
ナル若イ將兵ノ中ニハ、國家ノ禁止シタモ
ノヲ、假令法律ノ及バナイ地域外デアルト
言フモノノ、手ニスルコトヲ道義的ニ恥ヂ
ル者モ、確カニゴザイマセウ、是等ハ神前
ニ於キマスル國慶國祭ノ場合、元旦、其ノ
他節句、或ハ冠婚葬祭等ノ行事ニ於ケル酒
ト共ニ、併セ考ヘラルベキ問題デアリマシ
テ、其ノ取扱ニ付キマシテモ、此ノ法中ニ

十分ノ用意ノアルコトヲ申上ゲテ置キマス

尙ホ外國ノ宣傳文書等ヲ見マスルト、日本軍ハ酒ノ醉ヒヲ藉リテ突撃ヲスルト云フコトガ折々見エルノデアリマスガ、是ハ眞赤ナ嘘デアリマス、此ノ際ニ私自分ノ經驗カラ、左様ナコトノ決シテナイコト申上ゲテ置キタイノデアリマス、吾々ノ同僚静岡縣ノ加藤弘造代議士ハ、中隊長トシテ御出征ノ時ニ、漢口ニ於キマシテ四十六本ノ配給ノ酒ヲ、部下ノ取ルニ御任せニナツタ、所ガ持去ルモノ唯三本、四十三本ガ餘ツテシマツタノデアリマス、加藤代議士ハ當時中隊長トシテ、四十三本ノ酒ヲ悉ク打ツテ壞シテシマツタ御經驗ガアルノデアリマス（拍手）近來ノ若イ將兵ハ、漸ク酒ニ關スル態度ガ變ツテ來タノデハナイカト云フコトモ感セラレマス、要スルニ我が將兵ハ大元帥陛下ノ股肱、義ハ山嶽ヨリモ重ク、死ハ鴻毛ヨリモ輕シト覺悟致シマシテ、凡ユル困苦缺乏ニ堪ヘルノデアリマス、近クハ「ソロモン」群島ニ於ケル我が陸海軍、人間ヲ超越シテ居リマス、日本の立法トシテ、義理人情ヲ十分ニ考ヘツツ立案シマシタ此ノ法律ハ、陸海軍ヲ煩ハスコトガ決シテナイト確信致シマス（拍手）

大東亞戰爭ガ道義ノ戰タルニ照シマシテ、此ノ大戰下ニ戰力増強、増産、國民厚生保健ノ大切ナルニ鑑ミ、道義法、忠節孝行ノ法、經濟増産法、厚生經濟法タル此ノ法律案ノ通過ヲ、二百八十七名ノ同志ニ代リマシテ、衷心カラ祈ル次第ゴザイマス、以上（拍手）

○森下國雄君 本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長（内ヶ崎作三郎君） 森下君ノ勸議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○副議長（内ヶ崎作三郎君） 御異議ナシト認メマス、仍テ勸議ノ如ク決シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス
午後三時六分散會